

# 図書委員の私が選んだ本が 本屋のフェアになっていた件。

「図書委員の私が選んだ本が、本屋のフェアになっていた件。」これは、6月から三省堂札幌ステラプレイス店を始め、道内の一部書店で始まった企画展示である。名前の通り、全道の高校19校の図書局員、図書委員のべ123人が選書に参加し、高校生達が同世代へ向けた思いの「推し本」を選んだ企画で、月高図書局も参加した。展示ではそれぞれの「推し本」の紹介文が本の側のPOPに載っている。

実はこの企画を発案・推し進めてくださったのは月寒高校0Bで三省堂札幌ステラプレイス店で働く書店員の工藤志昇さん。『利尻島から流れ流れて本屋になった。』（寿郎社）という自身のエッセイ本も出版しており、月高図書局は昨年工藤さんへ取材、その特集の掲載された館報を出した。実はこのフェアも、この取材をきっかけに出発した企画だったようで、「同じ時代を生きる高校生らと共に本を通して何かを伝えたい」という気持ちが込められている。高校生の自由な発想と、「自分が届けたい思い」の詰まった本は、市内12店舗、道内全体で20店舗の協力書店に展示・販売されている。夏休みも目の今、我々が足を運ばない理由はないだろう。（ ）



↑本企画が行われている三省堂書店

# 凝り固まった頭をほぐせ QUIZ

11					7
8	5	6			
3				2	
		10	9		
		4			
	1				

並べ替えて答えを導け！

★がついているカギは、この館報の中に答えのワードがあります。

これから始まる地獄の日々……

--	--	--	--	--

## 《ヨコのカギ》

1. 問われ、答えるやりとりのこと
2. 金欠になり、時計を〇〇屋に売る
3. 立派な図書館〇〇〇ユーザー★
4. 月寒高校の〇〇〇〇ある校舎
8. 日本最古のおもちゃである〇〇〇〇★
10. ライオンとトラは〇〇〇〇である

## 《タテのカギ》

2. 辛味のある夏野菜
5. 〇〇っ子が公園で遊んでいる
6. 伊坂幸太郎作「〇〇〇〇スランパー」★
7. 元々はお盆に里帰りをする際にお供物を直接届ける風習だった〇〇〇〇見舞い★
9. 人口第1位の国
11. 余計なことをして、かえって自分に不利な結果を招くこと

# 心に移りゆく よしなしごと

このコーナーでは、局員が自身の体験や見聞を通して思ったこと、考えたことを、「そこはかたなく」書いた「エッセイ」を紹介していきます。

## 髪を切るとき

2ヶ月程前学校でふと、おっ、前髪伸びてきたな、と感じた。そういえば最後に髪を切ったときから丸2ヶ月程経っていた。人の髪は1ヶ月で1センチ程しか伸びないから2センチしか2ヶ月前の自分と差はないのだが、それなりに違って見えるのはなぜなのだろうといつも思う。そうしてふとした時、例えば帰り道に、いつ髪切りに行こうかなーとか、今度はどの写真の髪型にしてもらおう、などということがあれこれ頭に浮かんでくる。こういうふとした瞬間は、いつもより汚れて曇っていた眼鏡を拭って掛け直したときのような、視界が晴れるようなさっぱり感がある。私の場合ショートカットのキープのために行っている、長い髪をぱっきり切るような期待や感動はないのだけれど、それでも「少し自分が更新されていく」ことに、くすぐったいような嬉しさを感じるのだ。「髪を切る」でなくても、身長が少し伸びていたり、自分の変化に気づいたときはなんだか晴れがましい。

数日後、いつもお世話になっている美容室に行った。冒頭で前髪が伸びてきた、と言ったが私の言うこのときはだいたい前髪で顔の半分が覆われ、手元を見るとき勢いよく頭を振らないと字が読めないレベルである。そんなもつさりした髪を振り乱しつつ、イメージの長さのイケメンモデルさんの写真を見せ、おしゃべりしながら切ってもらう。余談だが、昔はモデルの写真若くは美容師さんに見せるなんて「心の中でせせら笑われてるだろうな」など穿って見てしまい諦めていたが、美容師が中年の女性になってからは恥じらいがなくなり堂々と「これにしてください!!」と言えるようになった。そして散髪が終わる店を出て、通りかかる窓で見る自分の姿に満足しながら、家に帰るのだ。そしてまた2ヶ月が経った。また髪が冒頭と同じ状況になっている。今度はどんな自分になるだろうか。自然と笑みが零れる中、家に帰るのである。（ ）

# 思想を盗め！

作品を越える登場人物たち 伊坂幸太郎

## 作家紹介

千葉県松戸市出身、現在は仙台市在住。東北大学法学部を卒業。大学卒業後はシステムエンジニアとして働きながら執筆を続け、二〇〇〇年に『オーデュボン』で新潮ミステリー倶楽部賞を受賞しデビューした。二〇〇八年に『ゴールデンスランパー』で第五回本屋大賞を受賞。長編作品だけでなく、『ジャイロスコープ』など中編作品や短編集もいくつかが発表されている。『陽気なギャングが地球を回す』『重力ピエロ』などいくつかが映画化された作品も存在する。

彼の作品の魅力としてよく話題になるのが、登場人物が作品を跨いで描かれているところだ。いわゆる「クロスオーバー」というもので、特に、伊坂幸太郎の作家活動初期の頃に発表された作品に多く見られている。デビュー作『オーデュボンの祈り』の主人公が『フィッシュストーリー』収録の『動物園のエンジン』で再度登場したり、『ラッシュユライフ』の主人公は、『重力ピエロ』で探偵として登場している。彼自身は「時期、読者に意図していない点を深読みされる怖さ」を感じて登場人物のクロスオーバーをやめていたこともあったそうだが、「深読みする」ということは読者にとっても楽しみなのかもしれない」と思い始め、最近の作品にも登場人物のクロスオーバーを取り入れることも増えてきたらしい。彼の作品を読んで、作品を跨いで登場しているキャラクターを探すと新しい新しい読書の楽しみを見出すのもいいかもしれない。（ ）

# 月高この一枚！



月高祭の季節だほー。  
学校祭マジック楽しみだほー。

場所：グラウンド 撮影：

# 月高祭記

日本の昔遊びと聞いて、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。けん玉、折り紙、めんこ、百人一首、お手玉など、皆さんも親しみのある昔遊びがたくさんあることでしょう。

今回の月高祭で、図書局は昔遊びについて紹介しました。すぐろくとトントン相撲の体験と、それらについて調べたポスターの展示を行い、盛り上がりました。

そんな昔遊びの中で、日本最古のおもちゃは「コマ」だと言われています。コマは漢字で「独楽」と書き、最古のものは紀元前1500年頃のエジプトで発見されています。日本の最古のものは、6世紀頃にぶちゴマがあったとされています。このぶちゴマが時代とともに変化し、ペーゴマとなり、現代で親しまれるベイブレードのモデルにもなりました。

このように、時代とともに昔遊びは進化を遂げています。皆さんも是非、お気に入りの昔遊びを見つけてみてください。（ ）



## 片言隻語

夏空がまぶしく感じられる季節となりました。学校からは熱中症に対する予防処置が発表されましたね。最近、私の周りでは「体育の後、食欲がわからない」という声を多く耳にします。体をクールダウンするには、首や脇の下など太い血管が皮膚の表面近くを通っているところを冷やす、夏野菜を食べる、通気性のよい服を着る、などが良いそうです。

学校祭も終わったので、水分補給などで体調管理をしっかりして、いつもより長い夏休みを心待ちに、引き続き勉強と部活頑張らしましょう！（ ）